

長崎県建築鉄骨研究会 令和6年度意見交換会報告

1. 開催日時：令和6年12月6日（金）16：00～17：30
2. 場所：長崎県庁舎 行政棟3階 312会議室（長崎市尾上町3-1）
3. 参加者：配布資料のとおり
4. 意見交換会（司会進行：岡崎克喜 専門委員長）

（1）概況

はじめに司会進行担当の岡崎克喜専門委員長から開会の辞が述べられた。なお、修行総会長が急遽ご欠席となったため会長挨拶は省略された。引き続き、会員の木場耕志氏による講話があり、岡崎克喜専門委員長から配布資料に基づいて令和6年度事業の中間報告が行われ、出席者全員による自由討議となった。

（2）講話

講師：木場 耕志 氏（一社）長崎県建築士事務所協会 会長（本会会員）
テーマ：建設業界と長崎県建築士事務所協会

講話が始まる前に、設計4団体（建築士事務所協会、JSCA、建築士会、JIA）の会合にて、JSCA九州支部より（一社）全国鐵構工業協会（鐵構工業会の上部団体）から「鉄骨製作図問題の是正・解消に向けたお願い（要望書）」の説明があったとの紹介がされた。

つづいての講話内容は下記のとおり。

- ・建築士事務所協会の加入率について、全国15.1%、長崎県は30.1%となり全国で2番目に加入率が高い。
- ・建築士は医師や弁護士など同じ「士（師）」業だが報酬額など金額に定めがないため、安定した収入を得られるようにしたいが、加入率が全国で約15%しかないため国への働き掛けが難しい。
- ・一級建築士の受験者数が減少している。
- ・建設業界には様々な業種があるが、どの業種も人手不足や働き方改革等、同じような問題を抱えている。
- ・建設業界を魅力ある業界にして、若者が地元で就職してもらえるようにしなければならない。

最後に、来年4月に改正される建築基準法・建築物省エネ法や木造について、建築士事務所協会の対応が紹介された。

(3) 自由討議

1) 社員について

- ・女性社員が20名程いる。現場の安全関係書類を女性社員がしている。
- ・男性社員も育休を取得している。
- ・現場監督で女性社員が2名いる。将来が見えるビジョンを会社が作っていかないといけない。
- ・資格取得のために学費を半額補助している。

2) 設計について

- ・大手の設計事務所は多くのデータを持っているため、用途や条件を入れるだけで過去の案件が出てくる。それをベースに設計しているようだ。
- ・新しいものは作れないが、似たようなものを作るだけならAIが便利かもしれない。

3) 工期について

- ・構造図と意匠図の食い違いが多い。働き方改革で工期は長く設定しているが、チェックバックが多く工期が足りなくなる。
- ・週休二日、夏場は暑くなるため長く設定する方向にある。チェック体制等の課題の改善をどのようにしていくのか悩ましいところではある。
- ・民間工事はオープン日が決まっているため工期が短い。

4) BIMについて

- ・BIMの導入で不整合は解決できないか。
 - 最終的に全部決まらないと発注できない。
 - 基本的には図面が完全に完成してから工場に流して作り始める。
 - BIMは取りかかりはするが完結したことが無い。完成すればかなりのメリットはあるが、完成したことがない。
- ・BIMは最初から入力するのか。CADデータから入力できるのか。
 - 互換性があればある程度入力することはできると思う。詳細入力には鉄骨の知

識がないと出来ない。

- ・ BIM の講習会を行なっているが、参加者の使用ソフトが異なると集まらない。

5) その他

- ・ 不整合については、個々の協議も必要だと思うが解決できない要素があるのか。
→ 上部では大きな問題は出てこないと思うが、底辺では細かい問題が出てくる。
→ 設計の時間が短いので長くしたほうが良い。今は確認の期限があるため、確認が遅くなると詳細までいけない。例えば、今まで設計に3ヵ月かかったのが、働き方改革により5ヵ月かかるようになる。時間がかかるとお金もかかるが、きちんと時間を取って設計するために金額を上げた方が良い。そうしないと解決しないのではないか。
- ・ 県産材を使うことを目的に木造で設計したことがあったが、難しく RC に変更になった。
- ・ 過去の木造建築においては、老朽化もあるためメンテナンスを考えないと難しい。
- ・ 設計者が木造の特性をきちんと理解していないと難しい。

以上

(文責：長崎県建築鉄骨研究会事務局 井手 陽子)